令和4年度事業報告書（令和4年5月1日～令和5年4月30日）

（敬称略）

《事業の概要》

写真を通じて日本文化の進展に寄与することを目的に、令和 4 年度は次の事業を行った

《中長期戦略企画室》

1. 中長期戦略企画室の業務を老朽化した日本写真会館対応に集中
   - これまで主要テーマとしてきた「今後の当協会の方向性（未来像）」は、各部会での議論をもとに会長･副会長会議等で協議を進めた
2. 日本写真会館･建替えの方向で検討を開始、当協会の現状に見合った具体案を模索
   - 「日本写真会館構想」具体化を促進するために、コーディネータを委託した「日税不動産情報センター」作成資料をもとに協議を進め、会館建替えの方向で検討することとし、開始した
   - 金融機関、建設会社等と、当協会の運営方針、財務状況に見合った具体案･案出の協議（中長期戦略企画室･在首都圏委員を中心に）を推進した

《総 務 部》

1. 令和 3 年度功労者表彰/令和 4 年度功労者の決定
   ① 第 76 回定時会員総会（令和 4 年 6 月 29 日･月）にて令和 3 年度功労者 5 名を表彰した。コロナ禍で表彰式を開催出来なかった令和元年度･2 年度受賞者（2 団体及び 13 名）を併せて紹介、栄誉を称えた
   ② 令和 4 年度功労賞表彰候補者 1 団体 7 名選出、令和 5 年度第 1 回理事会にて議決･承認、併せて令和 4 年秋･黄綬褒章受章者 2 名と併せて第 77 回定時会員総会にて表彰する
2. 全国ブロック、都道府県との合同会議を令和 4 年度は 2 回開催し、連携強化を推進した
   （10 月 事業部企画案をテーマにオンライン会議、12 月 次年度計画設定に向け、中野プラザで会議開催）
3. 写館協とは、活動スケジュール調整、「新春の集い」企画･運営等、事業連携を図った
4. 関連団体との情報交換と関係強化
   ① 日本写真著作権協会（JPCA）との連携強化による文協会員の著作権意識の浸透を図った
   - 第 76 回総会（6/29）終了後、共催にて「知っておきたい写真著作権･肖像権セミナー」を実施した。その他に、JPCA ニュースの会員への配布、会員に対する新著作権者 ID 番号の提供、同協会･月例会議への出席等

   ② 日本写真家協会（JPS）、日本広告写真家協会（APA）と三団体懇談会を開催した
5. 国際交流の推進･WPC の認知度向上策と WPC2023 への参画
   - WPC2023 国内応募総数 201 点
   - WPC2023 授賞式（3/17 シンガポールで開催）
     コマーシャル部門 川上 和俊 銀メダル及び、ベストオブネイション賞（国ごとのベストアワード）を受賞
6. 成人年齢引下げに伴う成人式式典年齢対応 ： 公共団体情報の収集とその活用を図った
7. 日本写真会館テナント管理徹底 ： 管理業務委託先の（株）ジェイコとの連携を強化した

《財 務 部》

1. 令和 3 年度の公益目的支出計画実施報告書、正味財産増減計算書等を内閣府へ 7 月末提出･受理された
2. 各部との収支予算設定のための検討会議を開催した
3. 財務･月度管理の徹底 ： 財務部･徳田経理顧問･事務局と毎月度実施した
4. 令和 5 年度予算の策定 ： 予算案を策定し、令和 4 年度第 3 回理事会にて議決承認された

《事 業 部》

1. コロナ災禍の中での社会貢献活動『チャリティー撮影&WEB 写真展』実施･協議（9～11 月）
   - 事業部及び会長･副会長会議にて検討･成案化を進め、続いてブロック長･事業部合同会議、全国ブロック、都道府県及び本部役員会議を通して、企画の改善と実施に向けた理解を得た上で、臨時理事会で審議する予定であった。しかし、最終的に会員から実施への理解が得られていないと云う理由にて、会長･副会長会議の決定として上程が取り下げられ、実施･協議は終了した
2. スクールフォトビジネスの構築
   ① 第 69 回全国展フォトコンテスト･学生の部応募促進 応募点数 1231 点･対前年 214%を実現
   ② 高校写真部向け撮影セミナー･マニュアル化の推進を図った
3. NPO 法人「よみがえれ卒業アルバム」事業に協力することを決定し、PR 等の協力を開始した

《文 化 部》

1. 全国展フォトコンテスト（全国写真展覧会）の実施
   ① 第 68 回（表彰式･入賞入選作品展）
   - 応 募 数 ： 2,000 点（対第 66 回 72%）、応募件数 ： 1,035 件（対第 66 回 74%）
   - 審 査 員 ： 水谷たかひと、秦達夫、田中秀幸、奥田昇、小林かずとも、武智忠広、八幡冨士男
   - 入賞入選 ： 入賞 26 点、入選 74 点、優秀賞 15 点 計 115 点

・ 表 彰 式 ： 令和 4 年 5 月 28 日(土) 東京都美術館講堂（東京･上野）
・ 入賞入選作品展、会場･会期･入場者数

会　場	会　期	入場者数
東京都美術館（東京･上野）	令和 4 年 5 月 28 日(土)～6 月 4 日(土)	1,349 名
富士フイルムフォトサロン大阪	令和 4 年 9 月 23 日(金･祝)～9 月 29 日(木)	2,399 名
ポートレートギャラリー	令和 4 年 12 月 22 日(木)～12 月 28 日(水)	367 名
入 場 者 合 計		4,115 名

② 第 69 回 （募集･審査）
・ 募集期間 ： 令和 4 年 12 月 8 日(木)～令和 5 年 2 月 8 日(水)
・ 応 募 料 ： 単写真･･･1,500 円/点、 組写真･･･2,500 円/組、 学生の部･･･500 円/人
・ 応 募 数 ： 2,102 点（対前年 105%）、 応募件数 ： 906 件（対前年 88%）
・ 審 査 員 ： 野町和嘉、秦達夫、田中秀幸、小林かずとも、朝風恵子、川地清広
・ 入賞入選 ： 入賞 26 点･入選 73 点･優秀賞 15 点　　計 114 点

賞	氏 名	都道府県名	部 門	タ イ ト ル
内閣総理大臣賞	氏井 美紀子	山形県	第 3 部	乳がんオペ、2 日前に
文部科学大臣賞	松浦 昭宏	静岡県	第 1 部	野鍛冶ひとすじ
文部科学大臣賞	古閑 マス子	福岡県	第 2 部	冬化粧
日本写真文化協会賞	大澤 萌恵香	岐阜県	学生の部	はい、チーズ
下岡蓮杖賞	榎原 等	神奈川県	第 3 部	人影
下岡蓮杖奨励賞	松島 綱男	岡山県	第 1 部	別離（わかれ）
奥田昇きもの写真大賞	児島 大志郎	鹿児島県	第 3 部	Sakura Fubuki

2. 第 71 回「写真の日」記念講演の開催
（第 68 回全国展フォトコンテス表彰式〈5 月 28 日･東京都美術館〉に併設して開催）
・ 講 師 ： 写真家 水谷たかひと ・ 演 題 ： スポーツ写真における「私」の表現方法 ・ 参加人数 ： 80 名
3. ポートレートギャラリー運営
① ポートレートギャラリー展示作品申込み･実施状況 （令和 4 年 1 月～12 月迄の 1 年間）
新型コロナウイルス感染症は漸く治まりを見せ、48 会期全てを開催した
展示申込み概況は、申込み数 54 選考合格 48 落選 6 （倍率 1.1 倍）
② 写真展開催実績 ： 企画展 1 件、公募展 50 件　 計 51 件 （令和 4 年度）
〈公募展〉 ・ 主催 ： 写真学校 2、関連団体 1、一般団体 28、一般個人 19 計 50 件
・ 内容 ： 風景 14（28%）、山岳 2（4%）、花 2（4%）、鉄道 1（2%）、ドキュメント 4(8%)、人物 4（8%）
文化財 3（6%）、混在 20（40%）
4. 写真展「写真館物語」～写真館で残す家族の歴史～ウェブ･ギャラリーの展開
・ 令和 3 年夏以降、全国 13 会場でブロック展を、令和 4 年 1 月、ポートレートギャラリー(東京･四谷)にて全国合同展（約 300 作品）を開催。写真館で撮り続ける家族写真の魅力等、大きな反響あり
・ 出展作品を貴重な記録として残し、また、会員向けの撮影技術資料として活用するために、会員限定のウェブ･ギャラリーを企画し、令和 4 年度末迄に制作･掲載を完了した
5. 写真の普及並びに写真文化･芸術に関する調査（一般や高校生に対して写真普及事業の展開）
① 山梨県高等学校写真連盟年間表彰（日本写真文化協会賞）
金賞 ： 山梨県立青洲高等学校 望月星夢、 銀賞 ：北杜市立甲陵高等学校 大山紗羽
銅賞 ： 山梨県立甲府工業高等学校 村上亜珠帆
② 日本写真映像専門学校卒業制作優秀作品の表彰
日本写真文化協会長賞 ： 写真コミュニケーション学科･写真表現コース 荒井勇哉 「1229 ページ目の栞」
写真コミュニケーション学科･営業写真コース 熊野寧音 「土のぬくもり」
フォトファイン学科 土居睦美 「Butterfly effect」
日本写真文化協会奨励賞 ： 写真コミュニケーション学科 市橋ふみ 「girl inside」
6. 写真の祖 下岡蓮杖翁の顕彰
・ 墓参会 ： 令和 5 年 3 月 3 日（金）染井霊園（東京･巣鴨） 参加 23 名

《広 報 部》

1. 広報部は昨年度より、広報部会にて情報共有･活動内容の大筋を検討し、その上で出版、IT･広報の 2 委員会で詳細を協議･遂行する体制で運営した
2. 文協の知名度･ステイタス向上のための活動推進･･･情報発信と受信窓口としての活動を展開した
3. 出版関係 ： 機関誌「写真文化」の更なる内容の充実及び、全国会員からの情報収集基盤の確立を推進した
① 令和 3 年度以降、経費削減のため、発行回数を 6 回/年→4 回/年に変更
② 「写真文化」発行減の対応及び新たなトライアルとして、メールマガジン「写真文化＋（プラス）」を令和 4 年度 4 回発信した
③ 写館協編集部との情報交換
・ 定期的な情報交換により、編集企画の独自性を確保した
4. IT 広報関係 ：
① メールマガジン「写真文化＋（プラス）」企画推進と未収都道府県からのメールアドレス収集を促進した

② ホームページのリニューアルを推進。「写真文化」をお客様目線で提案する内容を目指し、TOP ページの更新を完了した
③ 全国展フォトコンテスト・会長年頭所感等のニュースリリースを発行し、主要事業の対外告知を推進した

《教育訓練部》

1. 令和 4 年度・第 59 回夏期写真大学講座の開催中止
   ・ 3 年振りに開催すべく、準備を進め、参加者を募ったが、開催直前の新型コロナウイルス感染症・第 7 波による急激な感染拡大のため、止む無く中止した
2. 令和 5 年度・第 60 回夏期写真大学講座実施企画策定と対外告知の実施
   ① 期間短縮（3 泊 4 日から 2 泊 3 日）による受講料の値下げ、基礎コース・撮影コース・成人振付撮影コース・学校写真コースの 4 コースを設定、技能検定 1・2 級を目指す内容とする等、前回・第 59 回の企画をベースに見直しを行い、カリキュラム設定した
   ② 実施要項を作成し、機関誌「写真文化」とともに当協会会員に送付、また、ホームページにもアップし、告知を開始した
3. 令和 5 年度実施・技能検定「写真職種・肖像写真デジタル作業（1.2 級）の受検者増への働きかけ
   ① 受検者数減により、1、2 級は隔年の実施となったが、令和 5 年度は実施年度であり、令和 4 年度後半以降、受検者増の働きかけを推進した
   ② 主要都市での写真映像関係教育機関と連携した、検定試験実施可能な拠点づくりを提案。その中で、愛知県写真館協会がビジュアルアーツ名古屋と連携して技能検定 3 級の実施を検討開始した